

桐英会特別公演

ライトアップされた庭園と、世界無形文化遺産の「能楽」を楽しむ。

岡山後楽園幻想庭園

# 能楽の夕べ

# 半能 葵 上



舞離子 絵馬  
一調 龍田  
仕舞 胡蝶  
船弁慶

平成二十九年八月二十六日 (土)

午後七時開演 (午後六時半開場)

於岡山後楽園能舞台

# 能楽の夕べ

番組

お話し

馬野 正基

舞囃子

絵馬

清水 義也  
下川 宜長  
馬野 正基

大鼓 原岡 一之  
小鼓 横山 幸彦

太鼓 金春 國直  
笛 八木原周平

地謡

田口 亮二  
浅見 慈一

一調 龍田

謡 大島 衣恵

太鼓 梶谷 義男

仕舞

胡蝶 田口 亮二  
船弁慶 浅見 慈一

地謡

馬野 正基  
清水 義也

能の解説

清水 義也

シテ 北浪 貴裕

半能 葵 上  
ワキ 村瀬 提

大鼓 國川 純  
小鼓 大山 容子

太鼓 梶谷 英樹  
笛 梶宅 聡

後見

浅見 慈一  
馬野 正基

地謡

田口 亮二  
清水 義也

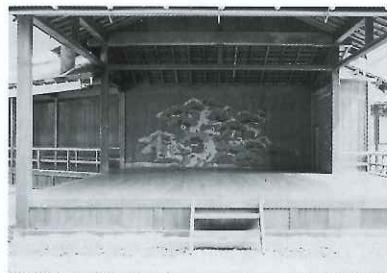
(終演午後八時半頃)

## ■舞囃子「絵馬」(えま)

帝の勅使が伊勢神宮を訪ねると、老人と姥が現れ、それぞれが晴れを祈る絵馬と、雨を祈る絵馬を堂の扉に掛ける。実は、そのふたりは伊勢の二柱の神であった。そして、信心を持って待つならば、明け方に誠の姿で再び現れようと言って消える。勅使がしばらく待っていると、天照大神が、天鈿女命と手力雄命を従えて現れて舞を舞い、「岩戸隠れ」のさまを見せ天下太平を言祝ぐ。日本神話で有名な「天の岩戸」伝説を表す能「絵馬」より。今回は、装束や面をつけず紋付袴で舞う「舞囃子」での上演にて、後半の三神が各々に異なる風情で舞う見せ場の部分のみをご覧ください。

## ■半能「葵上」(あおいのうえ)

舞台上に置かれる一枚の小袖は、病に伏せる光源氏の正妻・葵上を表します。病の原因は六条御息所の生霊でした。正妻の懐妊により源氏の愛の終焉を知った御息所は、その嫉妬と絶望、さらに葵祭の車争いで受けた屈辱を忘れず、生きながらにして魂だけが遊離し、夜な夜な葵上の枕辺に立っていたのです。そこで、修験行者の横川小聖(ワキ)が呼ばれて加持祈禱すると、鬼と化した御息所(シテ)が現れ、激しい恨みと悲しみを露わに、葵上に襲いかかります。しかし、横川小聖によってついに祈り伏せられ、ついには己の浅ましい姿に気づいて成仏するのです。今回は半能での上演となり、横川小聖の登場から後の場面のみをお届けします。激しく襲いかかる御息所の霊、それを数珠を採んで鎮めんとする横川小聖とのバトルをお楽しみください。



江戸時代後期、築庭を命じた藩主・池田綱政は、能に熱心ですぐれた舞い手でもありました。昭和20年の空襲で能舞台も焼失したため、現在の舞台は綱政の子・継政時代の遺構をもとに復元。鏡板の老松と右板壁の竹の絵は、郷土の面家・池田通邨画伯の筆によるものです。

## 梶谷 英樹 / 桐英会主宰

太鼓方金春流、昭和45年岡山県生まれ。幼少より祖父・尚太郎の手ほどきを受け、6歳で二十二世宗家 故 金春惣右衛門(人間国宝)のもとに入門。国内各地および海外公演にも数多く参加。東京・神奈川を拠点に活動。岡山では、父・義男とともに年に一度、後楽園能舞台にて社中会を開催している。

## 梶谷 義男

太鼓方金春流、昭和16年岡山県生まれ。岡山金春会主宰、地元愛好者の指導にあたる。後楽園能舞台にて昭和34年より毎年、50余年にわたり社中の大会を開催。

日程：平成29年8月26日[土] 19:00開演 / 18:30開場

会場：岡山後楽園能舞台

チケット：全席自由 2,500円 (後楽園入園券付き)

[チケットお申込み・お問合せ]

公演事務局 TEL: 086-222-3580 / FAX: 086-222-3582 (梶谷)

E-Mail: ujihira.yumi@lilac.plala.or.jp

岡山後楽園 TEL: 086-272-1148

※未就学児および飲酒されてのご入場はお断りさせていただきます。  
※主催者に許可のない写真撮影、録音、録画等は一切禁止といたします。  
※靴箱の用意はございません。配布のビニール袋に入れて各自管理をお願いいたします。